

ゆめ★たまご

2011年の「Re 青淵」
渋沢栄一没後80年、

「ゆめ★たまご」が提案する 80年後の産業像



渋沢栄一 さま



私たちは「日本資本主義の父」と呼ばれるあなたの生まれたこの深谷に、こんにち生きていることを誇りに思います。百四十年ほど前、当時欧州に渡った日本人のうちあなただけが理解して持ち帰った「資本主義」は、その後のいいこと、よくないこと、さまざまな出来事を経て私たちの暮らしを豊かにしてくれました。

ところで、あなたが亡くなってから80年のこの社会は、「道徳」と「経済」の合一を考えていたあなたの目にはどのように映るのでしょうか。便利、きれい、お得、いつでも、すぐに…。どれもみなありがたいことですが、同時に私たちの大事なもののまで奪ってはいないでしょうか。

私たちの世の中から失われつつあるもの。それはあなたの掘りどころだった『論語』にあり、あなたがその一節を「誠之堂」にも用いた「中庸」、つまり「ちょうどよさ」ではないかと、この一年活動するなかで私たちは気づき始めています。

最初はよかれと始めたこと。それが使っているうちに当たり前になり、いつの間にか本来の目的を超えて、それがそれであるために私たち自身の毎日を息苦しいもの、つまらないものにしてはいないでしょうか。

あなたが没して八〇年、私たちが活動を始めてちょうど一年の今回、幕末から明治の何もなかった日本に新たな考えを吹き込んだあなたにならい、そして百四十年前のあなたへの返事として、これからの産業、社会がどうあるべきかを、深谷市産業祭を舞台に提案します。

そう、あなたの没後80年ですから、時間を下って80年後、2091年の私たちの社会。大事なものは大事で、いらぬものはいらぬ。これは私たちが今の世でみる「ゆめ」です。

私たちは「ゆめ★たまご」。あなたがおっしゃったといわれる「夢なかるべからず」。「ゆめ＝理想」のないところに「幸福」はありません。

